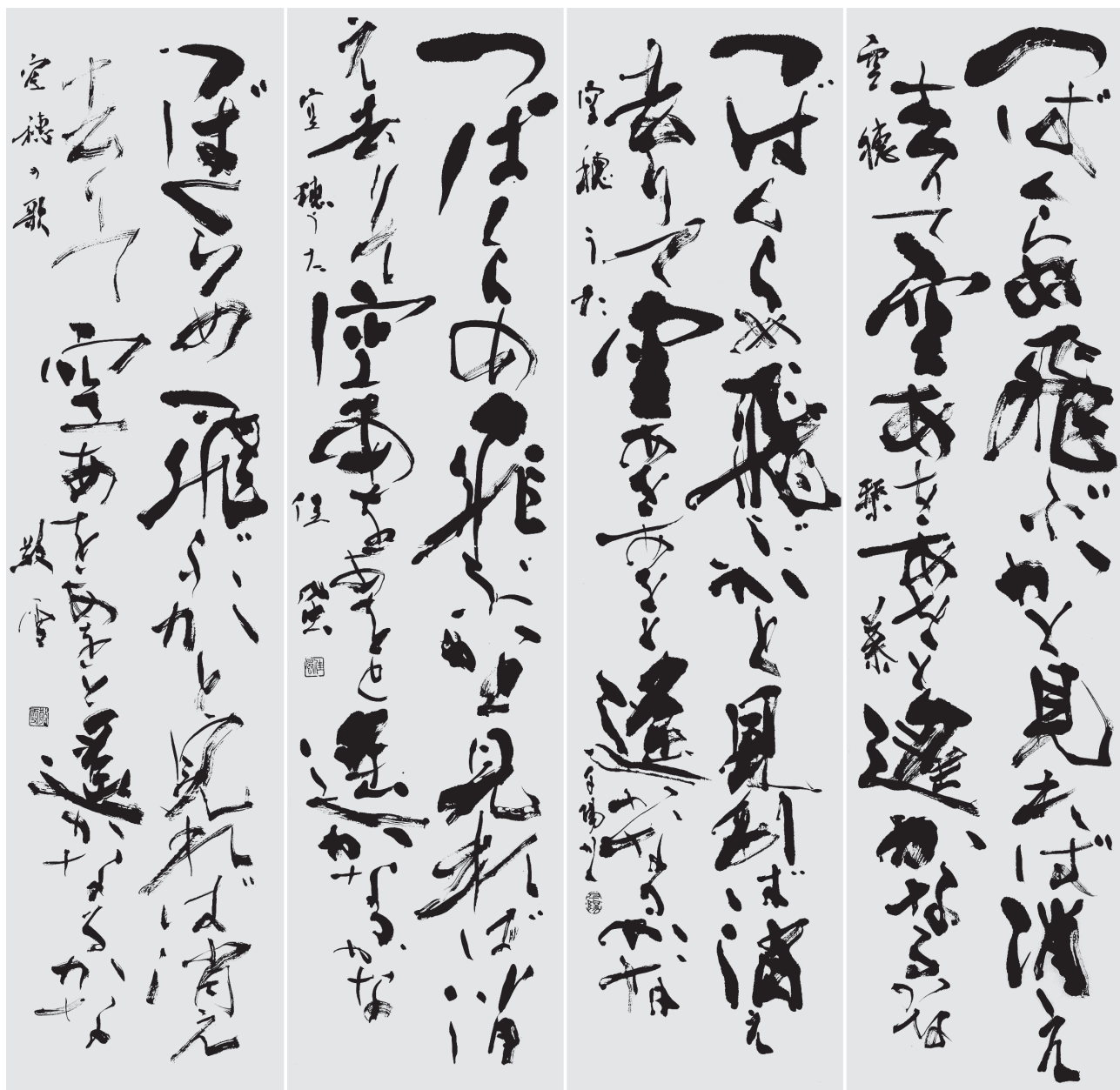


北澤翠香先生選評

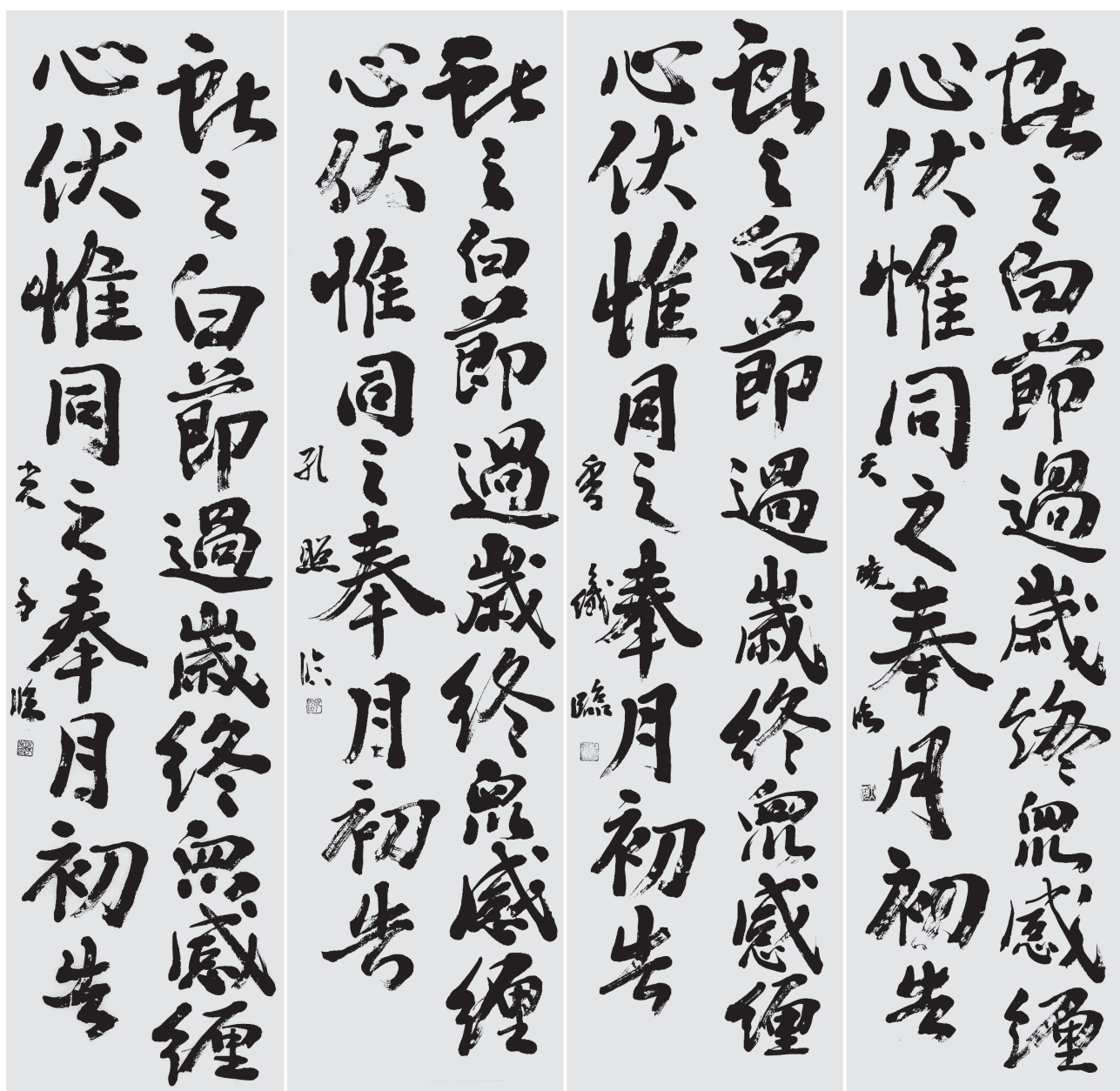


飯田 栞葉 推選
落筆高く思い切った紙面を
広く捉え、粘度の高い運筆
で、随所に見せる細線が明
るい白さを作り出した。風
格ある作品です。雅印がな
いのが残念。

坂本 千陽 推選
二行が寄り添う潤渾の運筆
が織りなす、絵画的妙技に
感嘆する。直線の利いた縦
画は縦長の作品をより強調
し、美意識豊富な書作者の
完成度の高い傑作。

下村 佳風 推選
運腕大きく温かい線質で、
紙面一杯に迫力ある運筆は
明るく、生気に満ち溢れて
います。疎密感、字の大小
にも工夫が感じられます。
纏まり抜群な作品。

古和田 敬雪 推選
穂先に肉が少ない堅めの筆
で、巧みに藏鋒を駆使し難
しい渴筆を堂々と表現した
力量は流石です。線の強弱
が立体的で、雅趣ある風情
の魅力ある作。



星 埜 天 曉 推選
参考作品だけでなく、原帖と比較して学習していただきたい。リズム感あり筆圧の軽重、浮沈が素晴らしく、明い渴筆が出せたと思います。

鯨 井 香 織 推選
隷書作品の腕前は誰もが認める所ですが、今回の作、線が深く、清らかで上品。一行目下部の処理見事です。二行目渴筆が少し欲しかった様に思います。

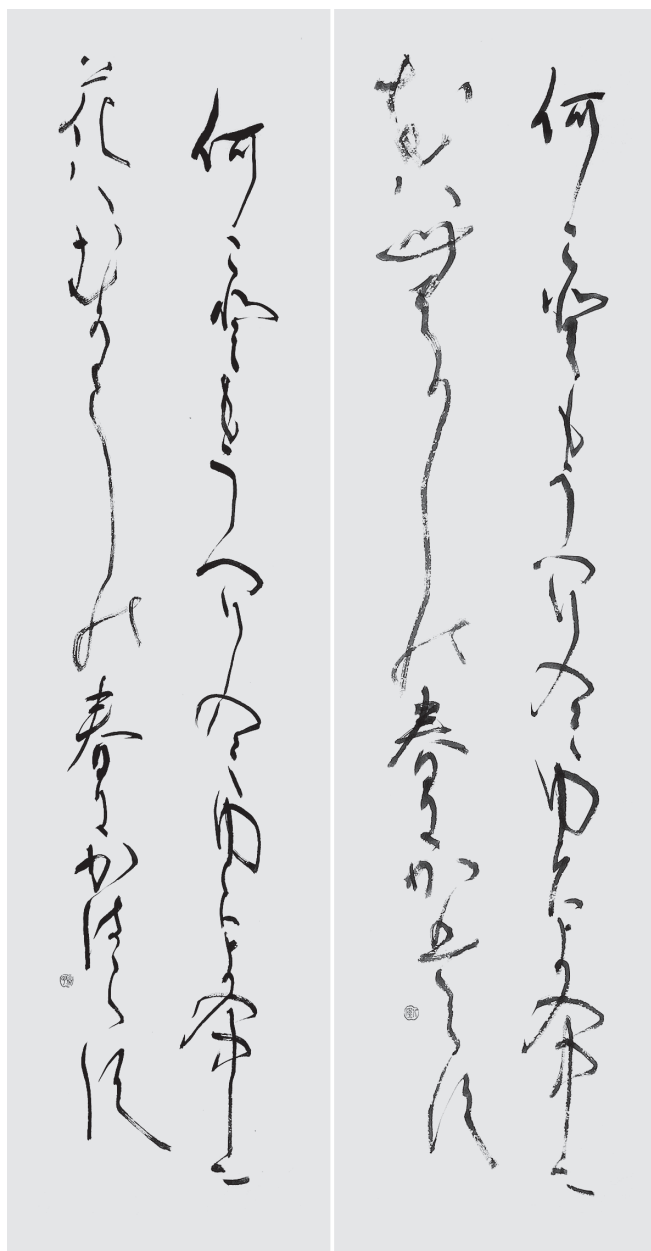
宮 尾 孔 照 推選
やや薄かったが大小、潤渴が良い。特に二行目の渴筆が明るさを出し白の美しい作品になりました。お天気が悪くなりそう、悪い時は少し濃いめがいいでしょう。

瀬 谷 光 子 推選
筆圧しっかりしており丁寧な書き振りで。一行目下部詰まりますよね？「纏」を二行目に持って行って「告」を書かなくても。後は下部ではなく途中に小さい字を入れる。

佐賀道子先生選評



露崎桂子先生選評



伊藤韶華 師範
自由奔放さと繊細さを兼ね備えた抑揚に富んだ筆致に魅せられます。心憎い程のリズム感見事です。特に「おもかはりせぬ」の連綿線光っています。

徳田輝子 師範
要所を心得た連筆で、大らかで流麗な連綿と抑揚に富んだ筆線は律動感あり趣深い。墨色を少し濃くすると、行の濃淡の呼応が更に際立つでしょう。

吉田裕子 七段
筆の開閉・上下運動の効いた明るい張りのある筆線が見事です。潤渇も美しく重量感ある作としました。学びの深さが窺えます。

青木桂清 六段
穏やかなリズムで繊細な線と太細の特色を潤渇のメリハリよく捉えていて立体感ある作。

吉村郁 準六
変体仮名「者・は」の三つある相違も細やかに表現して見事です。筆圧・潤渇の変化とリズム感も良好。

成宮薫堂 準四
筆管も立ち潤渇と太細の変化よく、爽やかな筆線で丁寧な臨書されていて好感。後半同右方向に流れ安定を欠き惜しい。揺らぎ合いながら、を大切に。

度をし。味して更に線の練度を。

上がりました。

大切に。

荒田芳子 推選
全体的に細めの線だが、呼吸に合ったリズムで纏められ、行の響き合いも良く、安定感のある作。線条にやや細太の変化がつくと、更に強さある印象深い作に。

中野八重子 推選
丁寧な連筆ながら、かならしい流麗さも持ち、自然な潤渇の変化も美しい。渴筆部分の「花・無」の筆の動きが作品を表情豊かな魅力あるものになっている。

葛西玄涛先生選評



水野恵子 師範
軽重の変化を出すために筆を動かす速度を変えて、浮き沈みをする腕の柔らかさがあります。理解しても実践が難しいことを容易に行っている。

田中禮雪 五段
やや小ぶりの文字で、字間の余白と紙面全体の余白を美しく品よく仕上げた。線の強弱の変化は、細かな腕の動きから演出され、透明度が高い。

三木美枝子 師範
原本の細線と鋭い線を良く観察して表現しています。忠実な臨書の中で筆運びの速度に緩急を付けて、躍動感がありながら上品な作となった。

竹一美雪 七段
無駄な細かな動きを省略して、素朴な味わいの線で書かれています。縦画はやや硬めの線、横画は強くて質素な線として、適度に混在させた。

齋藤爽瑠 八段
雄大な動きと迫力が、紙面から溢れ出しそうな強い印象を受けます。直筆を主体にしているのでもろやかな線となり、迫力と好対照となった。

池野遼典子 準四
それぞれの線を丁寧に紙に浸透するように書かれています。柔らかで滞りのない自然な流れの動きで、義之の線の強さと深さを忠実に描かれた。

松下聖心 師範
蔵鋒と波磔の角度や強さを深く研究されて、表現しています。鋭い線と優しい線が適合し、表情豊かな字形の魅力を高めることになりました。

吉田早百合 準四
ゆつくりとした蔵鋒から遅めに進む線と、渴筆が出るほど速く進む線がうまく調和しています。原本より字内空間を密にして、緊張感を表現した。

石橋清香 準六
筆の弾力を楽しむかのように明確な線の太細強弱を誇示している。行の中心を揃えて、字幅を変え、行の横の空間に余白の変化を美しく作った。

佐々木宏美 準四
太線部分をより強調しながら、重くなり過ぎないように速い運筆で書き上げています。墨量が豊富な中で、渴筆が紙面の明暗の美しさに貢献。

寺島蘭子 八段
深い蔵鋒からの重厚な線を多用していても切れ味があります。特に横画を引くことが素晴らしい。特筆の腕の動きは、力まずに目標を遠くにしていく。

佐々木隆道 準三
解説文にもあるが、軽快で、清澄な趣があります。臨書の取り組みとして、どのような線かを研究し、表現するかが重要であると証明しています。